

花き全国技術実証2023協議会【担当機関：農研機構（協力機関：沖永良部花き専門農協、鹿児島県大島支庁沖永良部事務所）】

背景とねらい

露地生産は気象の影響を受けやすいため、開花時期の年次変動が大きく、出荷時期が不安定である等の課題がある。そこで、実需者ニーズに応じたさらなる安定供給体制を構築し、国際競争力強化と地域活性化に繋げることを目指す。地域の気象情報と品種特性の理解に基づく生育・開花予測モデルの開発とモデルを活用したオンデマンド出荷情報の提供による安定取引の実証に取り組む。発育速度（DVR）モデルを適用した開花予測モデルの生産現場における適用性を検証し、予測モデルの実用性を評価する。

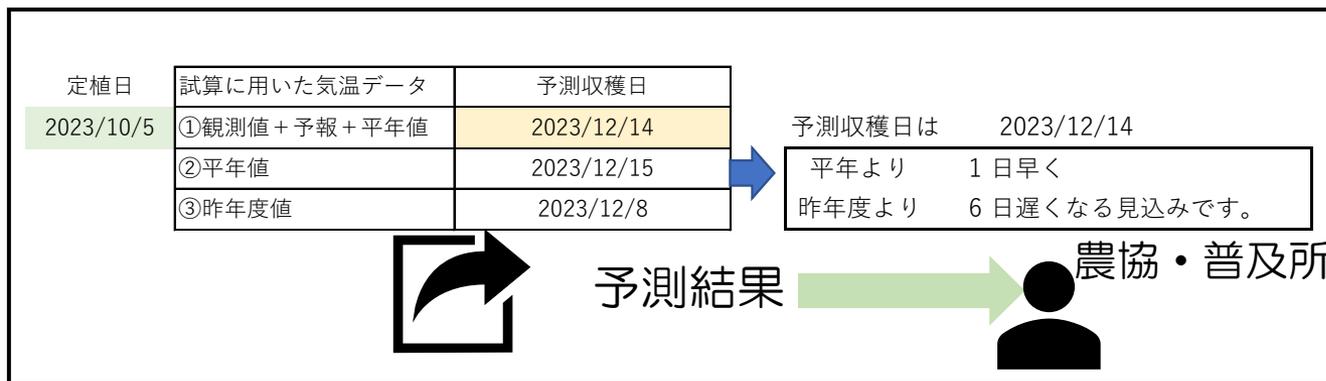
実証技術の概要

テッポウユリ 収穫日予測試行

DVR予測モデル

メッシュ気象データ
(予報値含む)

予測試行実施



1回目
10/29

2回目
11/12

3回目
11/27

4回目
12/11

5回目
1/4

6回目
2/19

⇒試行回ごとに予測結果更新

定植
10月5日

定植
11月10日

年末出荷

春彼岸出荷
3月

出荷状況おおむね
予測通り
(農協への聞き取り調査)

生産者

12月

実証技術の経済性

スプレーぎく
開花調節のための消灯日の決定に
予測技術を活用可能

DVR予測モデル

メッシュ気象データ

目標収穫日

算出

消灯日

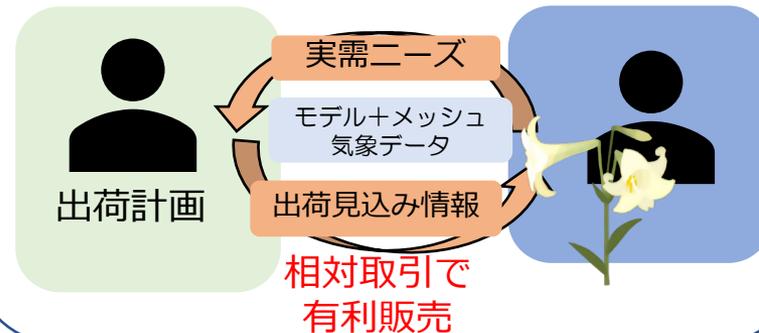
計画生産
を支援

テッポウユリ

収穫日予測による出荷見込み情報に活用

生産者・出荷団体

市場・実需者



期待される効果

産地として市場へのお荷見込み情報を事前に提供することができれば早期契約交渉、契約出荷割合の増加など有利販売につながる。また実需ニーズに合わせた生産計画の策定に活用可能である。

スプレーぎくでは開花調節のための消灯日の決定に予測技術とメッシュ気象データを活用したいとの産地ニーズがあった。DVR予測モデルは出荷見込み情報だけでなく、計画生産を支援する情報を生産者に提供可能である。

気温変化による予測日の変動を早期に捉えるため、予測結果の更新情報を毎日提供できるしくみが必要である。予測アプリのようなツールが手軽に使えるのであれば普及の可能性が高い。

今後、アプリの開発・提供など、生産者または出荷団体等が簡易に収穫予測を利用できる仕組みづくりや導入コストをいかに低減化できるかが課題である。